大津百町瓦版

秋　季　号［No．３８］
２０１８年　１０月
発行　大津の町家を考える会
大津市中央１丁目８－１３
TEL・FAX　077-527-3636
Email：otsu.machiya@gmail.com

大 津 ・ 町 家 ・ まちなか ・ いろいろ情報

大津城とはどんな城

大津城は、羽柴（豊臣）秀吉の命により坂本城の廃城に伴って、天正一四年（1586）頃に現在の浜大津周辺に建設された城です。初代城主は、最後の坂本城主であった浅野長吉です。浅野の次の城主は、増田長盛で、後に秀吉の五奉行の一人になる人物です。その後、城主は新庄直頼、京極高次と続きます。ところが関ヶ原の戦いが勃発して、高次は妻のお初が浅井長政の次女であったことから（長政の長女・茶々は秀吉の側室、三女のお江は徳川秀忠の妻）、難しい立場に立たされました。

京極高次は、一旦は西軍に属し北陸方面に向かいますが、突如、東軍に寝返りを決め、海津から大津城へ帰還して三千人の兵と籠城。大津城攻防戦で毛利軍の率いる西軍約一万五千人の大軍を大津に八日間足止めしました。この西軍の足止めにより西軍は関ヶ原の合戦に間に合わずこのことが勝敗を左右したといわれ、大津城は歴史的に重要な役割を果たしたのです。

勝利した徳川家康は大津城に入って戦後処理を行い、長等山から砲撃射程に入るという理由で九カ月後には大津城は廃城。変わりに膳所城を築き、城門等が移築されました。最後まで残った大津城の天守閣は彦根城に移築されました。膳所城下は江戸時代末まで城下町として賑わいましたが、大津は天領として代官が置かれ商人の町として賑わったのです。

前号は膳所城を掲載、同じ山極千三氏が作られた大津城模型（浜大津スカイプラザ６階に）があるとのことで秋季号に掲載。解説は『萬塾』での樋爪元歴史博物館館長のお話と「びわ湖大津観光協会」発行のリーフを参考にしました。【会員　雨森】

大津百町をどう活かす

旧大津地域は江戸時代から「大津百町」「鶴の里」とか呼ばれ随分と栄えた町でした。私達が『大津の町家を考える会』を結成してから２１年ですが、「百町物語」という大津の町家読本を出版したおかげで・・？「大津百町」はまさにこの旧大津地域に定着していると言っても過言ではありません。京都から逢坂峠を越えてまさに大津に入らんとするところに「大津百町」とブルーの標識が掲げられています。この地域に入って来られた方々も「大津百町」かと・・良い響きを実感されるようです。ところが「大津百町」の実態がなんとなく不安定なものになっていると私は感じ始めています。

【 再開発が進められる八町界隈 】

【 広重画・木曾街道六九次・大津 】

これは平成２１年大津で開催された「第２２回東海道シンポジュウム大津宿大会」のリーフレットで、大津宿大会実行委員会によって作成されたものです。

表題から見て頂くと本当に大事な課題が表現されているではないですか「水・緑・人が織りなす古都の輝きを放つ！」本当に素晴らしいサブタイトルだと思います。

大津市は平成１５年１０月に全国で１０番目の「古都」に政令指定されました。大津市はそこで古都にふさわしい風格あるまちづくりを進めることを目標として「古都大津の風格ある基本計画」を作成し、美しく風格ある良好な景観づくりに取り組むと謳っていました。

【上の広重の絵と同じ場所の現在・旧大津宿界隈 】

右の写真は八町通りの大津本陣跡碑近くに立つ、解説案内標です。そこには「上関寺から札の辻までの距離が八町(約 872 m)あったからとも、その間に八ヶ町あったことにもよるといわれています。江戸時代の東海道にあたり、道の両側には多くの旅籠屋がありました」と書かれています。

江戸時代沢山の旅籠が・・

その大津八町、当時の面影が少しでもあるかと思いきや上部二つの写真が示すように、再開発で旧来の住宅が取り壊しされてマンションや新しい住宅が建てられその面影は何も見えてきません。

その昔、フロイス、ケンペル、シーボルトといった西欧人も含め、多くの旅人がこの大津の良さを記録に留めていてその旅の記録は現在まで引き継がれています。

観光に力をいれる？

いま大津市は観光に力をいれています。歴史ある大津には沢山の観光資源がありますが、それを活かす創意と工夫がどの様になされているのかと気になります。

左の写真は樹齢５００年を超えるもと云われている「犬塚のけやき」。蓮如上人が京都から逃れて来られたおり、上人を毒殺するため出された食事をお供の犬が食べ死んだため犬を弔い植えられたけやきで、「犬塚のけやき」として地域の人に守られてきました。

またもう一枚の写真は八町宿場町の山手山腹にあった近松寺を写したものです。ここも宿場町華やかなりし頃三井寺観音堂と同じ様に、旅人が宿泊の合間に登り賑やかな大津の町並みと美しいびわ湖の風景を楽しんだところで「高観音」と呼ばれていました。

この「高観音」から望む大津百町の町は、古写真で見るとお寺や商家の屋根瓦も美しい北国海道に沿う町並みが広がっていました。

ここ北国海道もいまは、昔からの海道筋が道路拡張により古い町家が壊され味わいのあった通りのイメージは無くなりました。

右の写真の住宅は今年の『大津百町瓦版』新年号で紹介させて戴いた北国海道沿いにある宝石の様な町家。梅原家住宅で昭和２年(1927)建築の住宅です。

これも近々取壊されます。旧大津百町に残る貴重な宝物を壊していては、観光資源である大事な文化財を破壊しているのと同じことと思われます。　【 会 員　雨 森 】

大津市歴史博物館に行こう

大津(滋賀)は文化財の宝庫

古都大津の仏像と神像　10月13日(日)～11月25日(日)

昭和３３年、多くの方々に大津市の観光を楽しんでいただくために、大津市内の有名観光社寺が連携して「湖信会」が設立されて、今年は６０年の節目の年になることから大津市歴史博物館では『神仏のかたち―古都大津の仏像と神像―』展が開催されます。

普段は拝観することの難しい秘仏や、初公開となる像や曼荼羅図等を一堂に展示、詳しく分かり易い解説で見ることができます。是非行って見てください。

期間中関連講座も幾つかあります。

観覧料一般￥８００、高大生￥４００小中生￥２００　詳細は大津市歴史博物館　ＴＥＬ０７７－５２１－２１００まで。

年末の『萬塾』は

″健康＆長寿″

１２月２日(日)13:00～15:45

まちづくり　大津百町館

今年度最後の『萬塾』は、いま多くの人が関心を持つ健康と長寿についての講座を企画しました。

Ⅰ．　薬と健康について

丸屋町にある「ケイアイ薬品健康相談所」の磯崎 香さんに、特に健康の基本とは？薬と日常生活について等のお話をして頂きます。

Ⅱ．　長生きの秘訣は微生物にあり

長年中学校の理科の教師をしてこられた村上宣雄さんは、湖北方面で自然と環境について研究されており、特に微生物については様々な提言をされています。今回の『萬塾』ではきっと目からウロコのお話が聞けるでしょう。

見応えある 考えさせられる 写真展 三井寺観音堂書院にて10月6日(土)~11月4日(日)

藤原敦写真展『つくろひ』開催される

藤原敦氏は現在東京で活躍中の写真家ですがもともとは滋賀県野洲市出身。この藤原氏が故郷滋賀県に初めてレンズを向けて撮影した写真集を昨年五月に『蝉丸』と名前を付け刊行されました。

２００５年から写真家となって様々な被写体に向きあいこれまで三冊の写真集を出してこられ、パリ、ロシアのノボシビルスク等々国内外で写真展を開催されてきました。

昨年発刊された写真集が『蝉丸と命名されたことから、関蝉丸神社と縁の深い三井寺での写真展を開催されることになったそうです。

今回の写真展では、これまで藤原氏が発刊された『南国領』、『蝶の見た夢』『詩人の島』『蝉丸』四冊の写真集から原稿となったオリジナルプリントが多数展示されます。

写真は最近の写真集『蝉丸』から

萬　塾　第三回　6月30日(土)

行ってきました「鬼瓦工房」

『萬塾』講座、前半の最後は下阪本旧比叡辻にある鬼瓦を製造されている『美濃邉鬼瓦工房』を見学でした。雨が止んで少し暑い日となりましたが、ＪＲ比叡山坂本駅に７名が集合。旧北国海道沿いにある工房へ向かいました。

こちらは創業１００年、鬼瓦を専門に製造している数少ない工房です。土作りから成形まで全て手作りでおこなわれていると聞き参加者はびっくり。

≪なんと初代は大津・松本瓦に弟子入り≫

こちらの４代前の初代は、大津・松本の瓦工房に弟子入りされ修行されていたそうです。そこから瓦を焼く技術を修得されるようになって、現在は鬼瓦を専門に製作する工房として営業されています。

【 説明を熱心に聞く参加者 】

大きな鬼瓦は採寸し何パーツかに分割し、現場で組み立てるそうです。最近製作された大きなものは、西本願寺御影堂の鬼瓦だそうです。

【 最後の仕上げの鬼瓦 】

大津の古い町家の屋根に乗せられている鐘馗さんも製作しておられ、最近では室内インテリアとして求められる方もあるそうです。

【 展示室に並ぶ鬼瓦 】

編集後記

毎号のことですが、掲載内容については何時も悩まされます。今号は前号の膳所と同じ様な大津城の銅版製の物があるので、それを掲載してくれとの話がありトップは大津城となりました。またマスコミ等で盛んに「町家ホテル」と話題になるので今の大津百町に目を向けてみました。　［K.A］

気になるお店紹介

古民家カフェ「SORA」そら

大津市馬場１丁目5-10
TEL 077-524-9787
営業日：火～土　時間：9:00～17:00

ＪＲ・京阪膳所駅からときめき坂を西武方面へ坂道を下ると旧東海道に出合います。左折するとすぐに左側に芭蕉の眠る有名な「義仲寺」があり、その一軒隣りに古民家カフェ『そら』があります。

ここを少し大津寄りに行くと、江戸時代には対岸の草津・矢橋との渡しで賑わった大きな石場港があったところです。

『そら』は旧東海道に面した築百年の古民家で、内部も店舗向けに改装したりせず風情ある町家そのままの状態で営業されています。

真心込め作られた食事、メニューは？

素材を活かしたランチ　￥８００
トーストセット(玉子・サラダ付き)
￥６００　※一時までは￥４５０
コーヒー　￥４５０　ハンドドリップで丁寧に入れます。クッキー付き